

ふるさとの祭

金刀比羅神社の祭礼

松尾町八田にある金刀比羅神社。神社の北方、横芝に坂田池があり、その更に北に坂田城址の山が続く。この坂田城は井田因幡守友胤の居城となり、一説にはこの井田因幡守が讃岐國金刀比羅神社を信仰し、現在の地に金刀比羅神社を建てられたという。その為か、この神社は珍しく社殿が北西を向いて鎮座しており、その方角には坂田城址が存在する。金刀比羅神社のご祭神は大己貴命（別名：大国主命）、大日靈命（別名：天照大神）、金刀比羅神社の大己貴命は八田地区全域の氏神様で総鎮守。

例大祭は10月10日で3年に1度御神輿が出る。昨年は震災の影響で中止となり、今年に御神輿渡御となった。担ぎ手も仕事を持っている人が多くなった為、10月6日（土）に御神輿の渡御、例大祭が10日（水）と分かれた。

日程

- 10月6日（土） 発幸祭（午前8時半頃）
神輿渡御 八田地区を練り歩く
還幸祭（午後5時頃）
巫女舞が昼に共同館で披露される
- 10日（水） 例大祭 多くの出店がでて賑やかである



神輿渡御



巫女舞

地域を結ぶ伝統

「まつり」という言葉は「祀る」の名詞形で、本来は神を祀ること、またはその儀式を指すものである。

「祭」のその目的や意義は、「五穀豊穡」、「商売繁盛」、「疫病退散」、「無病息災」、「家内安全」などを祈願、厄除祈念として行われるものなど様々である。

地域住民総勢で神輿を担ぎ、山車を引き地域を練り歩いた。

今は、各地域で行われていた「祭」も市街地の衰退とともに、後継者の不足（若者や子どもたちの減少）等が課題となり、地域住民のみでの開催が難しくなってきた。

忘れられつつある地域の結びつきの一つである「祭」を通じて地域の伝統文化を知り後世に伝えていく。

